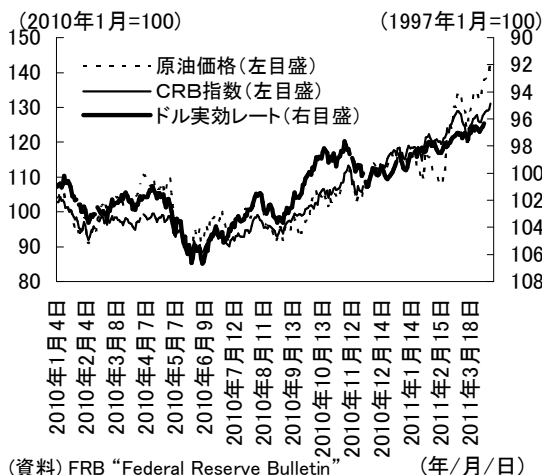


上昇する一次産品・貴金属価格

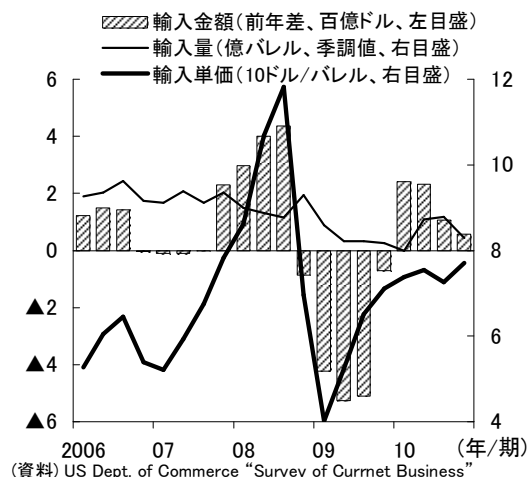
～ 懸念される米国経済の下押し圧力増大 ～

- (1) 一次産品価格や貴金属価格が3月末前後を境として再び大幅上昇(図表1)。例えば、原油価格はWTIでみて1バレル当たり100ドル前後から110ドル前後の水準へ。金価格は1トロイオンス当たり1,400ドル前後から1,400ドル台後半へ。
- (2) 原油に即してみれば、中東情勢の沈静化シナリオが後退する一方、原発懸念から原油需要増加シナリオが台頭など様々な要因が指摘できるものの、根底にはドル安の進行(図表1)。円ドル相場では3月半ば以降、ドル高が進行しているものの、ドル高の動きは一部の通貨に限定(図表2)。典型例は中東情勢の流動化を映じたエジプトやシリア、輸出競争力強化を視野に通貨切り下げを実施したベトナム、政治情勢の混迷が続くアルゼンチンなど。むしろ大半の国ではドル安が進行。とりわけ、オーストラリアや南アフリカ、ブラジルなど資源国では大幅なドル安に。新興国等の力強い経済成長を見越した資本流入が再び盛り上がりへ。
- (3) 原油価格の上昇は米国経済の下押しに作用。米国は大幅な原油輸入国であり、原油価格の上昇は国内所得の流出とコストプッシュ・インフレに波及。本年の輸入原油価格を、現下のWTI並みの110ドル/バレルとすると、所得流出分だけでGDPを▲0.8%、北海ブレントを若干上回る130ドル/バレルとするとGDPを▲1.3%押し下げ。
- (4) 早晚、個人消費への影響は顕在化する懸念大。4月11日時点でガソリン価格は全米平均で、3.84ドル/ガロンと消費屈折の分岐点とされる4ドル/ガロン弱の水準に到達。主要10都市をみると、ロスアンゼルス4.24ドル/ガロンを筆頭に8都市で3.8ドル/ガロン以上に。

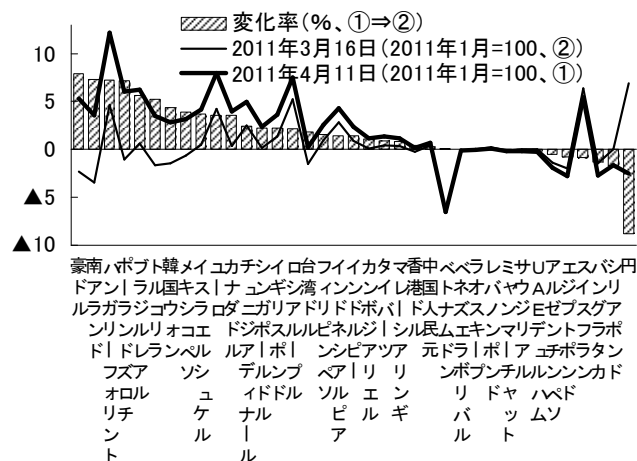
(図表1)ドル相場と原油価格、CRB指数の推移



(図表3)米国の原油輸入の金額と価格、輸入量



(図表2)主な通貨別に見た対ドル相場の推移



(図表4)米国主要都市別ガソリン価格

